

エコアクション 21
令和 4 年度環境活動レポート
(2023 年 4 月～2024 年 3 月)
2024 年 8 月 15 日作成

株式会社永光自動車工業

1. 事業活動の概要

- ① 事業所名及び
代表者氏名： 株式会社 永光自動車工業
代表取締役社長 木俣 博光
- ② 所在地： 千葉県千葉市若葉区小倉町 1301 番地
- ③ 環境管理責任者： 財務部 チーフ 吉野 隆行
- ④ 連絡担当者： 財務部 チーフ 吉野 隆行
TEL 043-231-8211 FAX 043-231-8466
E-mail info@ea-net.co.jp
- ⑤ 事業内容： 自動車の整備、修理、钣金、架装、自動車販売
自動車保管、運搬事業
損害保険並びに自動車損害賠償保険法に基づく保険の代理業務
自家用自動車の有償貸渡業
- ⑥ 事業の規模
- ・総売上： 653,191,072 円（2023 年 4 月～2024 年 3 月）
 - ・資本金： 10,000,000 円
 - ・従業員数： 43 名（うちアルバイト 8 名）
 - ・床面積： 14,160 m²
- ⑦ 認証・登録内容
- ・事業活動： 自動車の整備、修理、钣金、架装、自動車販売
 - ・対象事業所： 本社・工場
 - ・認証・登録日： 2004 年 11 月 15 日
 - ・認証登録番号： 0000006

《下記の使用済自動車の再資源化等に関する法登録・許可を保有していますが実績なしのため、認証対象外》

自動車リサイクル法	行政	登録・許可 NO	有効期限
引取業者登録	千葉県	20551000027	令和9年8月27日
フロン回収業登録	千葉県	20552000027	令和9年8月27日
解体業許可	千葉県	20553000027	令和7年3月31日

2. 環境経営方針

環境経営方針

- ◎当社は、環境とデリケートな関係に立つ自動車に携わる企業の責任として、地球環境の保全に自主的かつ積極的に取り組んでまいります。
- ◎当社は、自動車の整備、修理、钣金、塗装、解体、架装、販売等全ての活動において、廃棄物の総排出量、電気、燃料、水、化学物質の使用量を最小限にするよう努めます。
- ◎当社は、自動車整備事業者として、環境に優しいリサイクル、リビルト品使用を推奨して、顧客の理解を得ながら、その普及に努めます。
- ◎当社は、エコドライブを推進します。社用車における走行はもとより、顧客や取引先に対してもエコドライブへの理解と協力を求め、その普及に努めます。
- ◎当社は、顧客及び取引先に対して自動車に対する正しい知識及び正しい管理についての啓蒙・啓発活動に励み、エコドライブ及び燃費向上管理の普及に努めます。
- ◎当社は、従業員の環境教育及び環境保全会議等により、環境保全に対する意識の向上を図り、全社一丸となり環境保全へ取り組みます。
- ◎当社は、当社及び当社事業活動に適用される環境に関する法規等を遵守する事を誓約します。
- ◎当社は、環境経営への継続的改善を誓約します。

この環境方針は、全従業員に周知徹底する事とともに社外にも公表します。

2011 年 10 月 10 日

株式会社 永光自動車工業

代表取締役社長 木俣博光

3. 環境経営目標

(1) 中期目標の設定

2020 年から 2019 年度を基準年度とし、目標項目①から④は基準年度以下を⑤は 4.5%増を目標とします。

(4 月～3 月)

目標項目	単位	基準年度 実績 2019 年度	2023 年度 目標	2024 年度 目標	2025 年度 目標
①二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	130,763	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(電気使用量)	kWh	183,507	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(ガソリン使用量)	L	12,056	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(軽油使用量)	L	3,949	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(灯油使用量)	L	2,165	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(LPG 使用量)	kg	77	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
②廃棄物排出量の削減	t	23.23	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
③水使用量の削減	m ³	569	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
④化学物質使用量の削減	kg	1,769	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
⑤リサイクル、リビルト品使用量の 向上	%	7.77	8.24%増	8.37%増	8.49%増
⑥エコ車検、エコ整備の実 施	%				



二酸化炭素排出係数

電気：東京電力エナジーパートナーH29年度調整後排出係数（0.474kg-CO₂/kWh）

ガソリン：2.32kg-CO₂/L、軽油 2.58kg-CO₂/L、灯油 2.49kg-CO₂/L、プロパン 3.00kg-CO₂/kg

(2)主要な環境経営活動計画の内容

①二酸化炭素排出量の削減

(電気)

業務の見直しによる勤務時間の適正化により、事務所及び作業場で使用する電気を削減します。

LED電球への交換を実施、昼休みの消灯、クールビズ、ウォームビズの励行、納期、作業工程の見直しを実施します。また事務所の古いエアコンを廃棄及び買換えにより、電力使用量の軽減を目指します。

(燃料)

燃料使用量を削減するために、社用車のハイブリッド車への転換を引き続き進めます。

社員、顧客へ安全で効率的な運転を推奨し、燃費効率化を図り、二酸化炭素排出量を削減します。

②廃棄物排出量の削減

作業場や事務所から発生するごみは分別を徹底し、最終処分量の削減に取り組みます。

③水使用量の削減

作業場や事務所で使用する水は雨水利用により節水するため、雨水貯留を進めます。

④化学物質使用量の削減

エコ整備・エコ車検を推進し、顧客車両の有害排出ガス低減に努めます。

塗装の売上増が見込まれるが、塗装方法の見直し、シンナー再生機の利用によりシンナー使用量を圧縮してトルエン使用量を抑制します。

⑤リサイクル部品、リビルト部品使用量の向上

リサイクル部品、リビルト部品などの活用によるリサイクル活動に努めます。

(3)環境経営目標の担当部署及び責任者

目標項目	担当部署	責任者
①二酸化炭素排出量(電気)(燃料)の削減	財務部	吉野 隆行
②廃棄物排出量の削減	钣金技術部	大橋 富美雄
③水使用量の削減	財務部	吉野 隆行
④化学物質使用量の削減	钣金技術部	大橋 富美雄
⑤リサイクル、リビルト品使用量の向上	整備技術部	遊馬 達彦
⑥エコ車検、エコ整備の実施	整備技術部	遊馬 達彦

4. 環境経営活動の取り組み

(1)2022 年度の目標と実績

(4月～3月)

二酸化炭素排出係数

環境経営目標	単位	基準年度 実績 2019 年度	基準比	2023 年度 目標①	2023 年度 実績②	目標対比	
①二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	130,763	基準以下	130,763	115,314	○	88%
(電気使用量)	kWh	183,507	基準以下	183,507	185,959	×	101%
(ガソリン使用量)	L	12,056	基準以下	12,056	9,501	○	79%
(軽油使用量)	L	3,949	基準以下	3,949	3,031	○	77%
(灯油使用量)	L	2,165	基準以下	2,165	1,327	○	61%
(LPG 使用量)	kg	77	基準以下	77	45	○	58%
②廃棄物排出量の削減	t	23.23	基準以下	23.23	13.15	○	57%
③水使用量の削減	m ³	569	基準以下	569	392	○	69%
④化学物質使用量の削減	kg	1,769	基準以下	1,769	686	○	39%
⑤リサイクル、リビルト品使用量の 向上	%	7.77	6.1%増	8.24	10.50	○	106%
⑥エコ車検、エコ整備の実 施	%	0	0	0	0		0%

電気：基準及び目標値は東京電力エネルギーパートナーH29 年度調整後排出係数 (0.474kg-CO₂/kWh)

実績は東京電力エネルギーパートナー令和 1 年度調整後排出係数 (0.441kg-CO₂/kWh)

ガソリン：2.32kg-CO₂/L、軽油 2.58kg-CO₂/L、灯油 2.49kg-CO₂/L、プロパン 3.00kg-CO₂/kg

(注) ○：目標を達成、△：目標には届かなかったが昨年度より改善、×：目標未達

(2)2022 年度の取組結果の評価

①二酸化炭素排出量の削減

(電気) 電気の使用量は、事務所内の電力管理、温度管理を徹底 (冷房 28 度程度、暖房 20 度程度) するも夏の猛暑も影響したこともあり目標は達成できませんでした。今後も業況の拡大にともない架装・溶接作業は増加する見込みのため、納期管理、作業工程の見直しを常に行い電気使用量の抑制に努めます。

更に事務所のエアコンを廃棄及び買換えした事により電力使用量の軽減を目指します。

(燃料) ガソリン価格の高騰を懸念しつつも社用車の燃費向上を目指しました。予定管理システム (サイボウズ) による社用車の管理、エコドライブの実施により燃料削減に努め、燃料使用量は目標を達成できました。

②廃棄物排出量の削減

コロナの影響も消息に向かう一方、更に昨年までディーラーの車両納期の遅延が、一部の車両によっては正常化されたものもあり売上が増加されました。それに伴う修理により排出された廃棄物が少なかった事もあり目標は達成されました。

つまり売上の増加を視野にいれながら極力、廃棄量を減らす事が達成された年度でありました。

③水使用量の削減

今期も水使用量は目標通り削減できました。節水を心掛けた事により使用量が減少したと考えられます。

更に節水を心掛け使用量を削減して行くとともに雨水の有効活用もして行きます。

④化学物質使用量の削減

塗装する車両の入庫減少に比例するかのようにシンナー使用量も減少しました。更にシンナー、トルエンの管理には注意していく所存ですが、今後もシンナー再生機の利用を進め、シンナー使用量を圧縮します。

⑤リサイクル・リビルト品使用量の向上

今年度も車部品の価格高騰もある為、リサイクル、リビルト製品の購入を顧客に勧め、順調に比率を高めることができました。

リビルト商品を扱う取引先との取引を増やし、今後もリサイクル品やリビルト製品の活用を推進してゆきます。

(3) 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2022 年度からは以下の目標といたします。

(4 月～3 月)

目標項目	単位	基準年度 実績 2019 年度	2023 年度 目標	2024 年度 目標	2025 年度 目標
①二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	130,763	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(電気使用量)	kWh	183,507	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(ガソリン使用量)	L	12,056	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(軽油使用量)	L	3,949	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(灯油使用量)	L	2,156	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
(LPG 使用量)	kg	77	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
②廃棄物排出量の削減	t	23.23	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
③水使用量の削減	m ³	392	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
④化学物質使用量の削減	kg	1,769	基準年度以下	基準年度以下	基準年度以下
⑤リサイクル、リビルト品使用量の 向上	%	7.77	8.24%増	8.37%増	8.49%増
⑥エコ車検、エコ整備の実 施	%	0			

二酸化炭素排出係数

電気：基準及び目標値は東京電力エネルギーパートナーH29 年度調整後排出係数 (0.474kg-CO₂/kWh)

ガソリン：2.32kg-CO₂/L、軽油 2.58kg-CO₂/L、灯油 2.49kg-CO₂/L、プロパン 3.00kg-CO₂/kg

①二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の目標は基準年度以下に抑える目標とした。

(電気)

引き続き業務の見直しにより、時短を心掛け事務所及び作業場で使用する電気を削減します。

社員の作業着の見直しにより、多少の自由は許容した作業着の元、暑さの軽減を図る。

必要最低限の電気消費を心掛け、引き続き業務の見直しを実施します。

また設備投資も視野に入れ、従業員の職場環境を考え工場内にエアコンを導入する事も検討していく。

(燃料)

未だ続くガソリン価格の高騰に考慮しつつ、社用車の無駄な使用を控え燃料使用量の削減に努力します。

社員、顧客へ安全で効率的な運転を推奨し、燃費効率化を図り、二酸化炭素排出量を削減します。

②廃棄物排出量の削減

産業廃棄物排出量は基準年度以下に抑える目標とした。

作業場や事務所から発生するごみの分別を徹底し、更に最終処分量の削減に取り組みます。

③水使用量の削減

作業場や事務所で使用する水は雨水利用により節水するため、引き続き雨水貯留を進めます。

④化学物質使用量の削減

エコ整備・エコ車検を推進し、顧客車両の有害排出ガス低減に努めます。

塗装の売上増を期待した上で、塗装方法の見直し、シンナー再生機の利用によりシンナー使用量を圧縮してトルエン使用量を抑制します。

⑤リサイクル部品、リビルト部品使用量の向上

引き続きリサイクル部品、リビルト部品などの活用によるリサイクル活動に努めます。

5. 関連法規への違反、訴訟等の有無

2022 年度取り組み期間中、環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反はありません。

主な環境関連法規は下記のとおりです。

・廃棄物処理法 ・自動車リサイクル法 ・消防法 ・家電リサイクル法 ・高圧ガス法等

なお、過去 3 年間、関係当局による違反の指摘や訴訟等はありません。

6. 代表者による評価と見直し（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

■環境経営方針

ガイドライン 2017 年版に則り推進します。

■環境経営目標

新しい目標設定で活動を推進します。

■環境経営活動計画

ガイドライン 2017 年版に則り推進します。

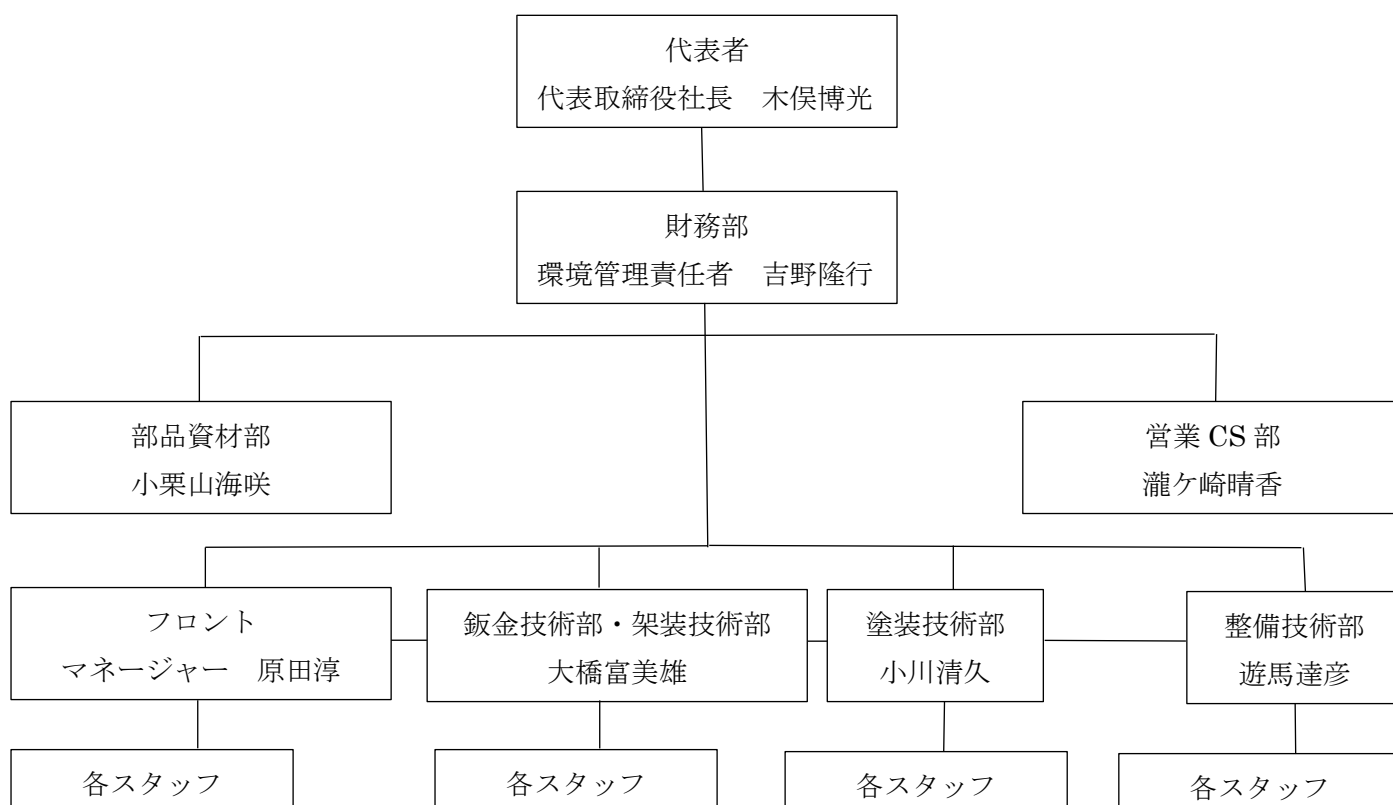
■実施体制と取組結果

環境経営目標に対して、コロナの影響により売上の減少もあり目標達成出来なかったものもありましたが、次年度以降の環境経営目標は、売上増加を期待しつつも、二酸化炭素排出量や廃棄物排出量の増加を抑える予定です。また、世界的な課題である二酸化炭素排出量の削減に取り組むことを前提として、その取り組みの一つである電気自動車等 EV 商品を扱うショールームを作り、ハイブリット車や I T 搭載車だけでなく電気自動車等も扱うように致しました。

《EV ラボ（ショールーム）》



株式会社 永光自動車工業
環境経営システム組織図



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・ 経営における課題とチャンスの整理と明確化 ・ 環境経営に関する統括責任者。 ・ 環境経営方針の策定及びシステム実施に必要な資源(人・物・財務)を準備 ・ 環境管理責任者の任命 ・ 環境経営目標、環境経営活動計画を承認。 ・ 代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・ 環境活動レポートの承認。
環境管理責任者 財務部	・ 環境経営システムの構築、実施、管理 ・ 環境関連法規等取りまとめ表の作成。 ・ 環境関連法規等の取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・ 環境への取り組みの自己チェックの実施 ・ 環境経営目標、環境活動実施計画書の作成。 ・ 環境活動レポートの作成。 ・ 従業員に対する教育訓練計画の策定、実施 ・ 省エネ対策、紙資源の削減 ・ CO2 排出量の削減 ・ 廃棄物、化学物質等排出量の記録管理
営業 CS 部	・ 顧客へ環境配慮商品(エコ車検、エコメンテ)を提案 ・ 営業車、社用車のエコドライブに努める
部品資材部	・ 化学物質等購入量の記録管理
	役割・責任・権限
フロント	・ 顧客へ環境配慮商品(エコ車検、エコメンテ)を提案 ・ 顧客へリサイクル部品使用を提案
钣金技術部 架装技術部	・ 産業廃棄物の排出抑制、置き場管理 ・ 顧客へリサイクル部品使用を提案
塗装技術部	・ 有機溶剤の使用削減、保管管理（シンナー（トルエン））
整備技術部	・ 産業廃棄物の排出抑制(廃部品、廃油類) ・ 化学物質の使用抑制、保管管理(フロンガス、LLC)
全従業員	・ 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・ 所属部署の役割を自覚し、自主的かつ積極的に環境活動へ参加